

研究所彙報

一 二〇二〇年度研究所・所員リスト

- 教授 市野澤 潤 平 (文化人類学)  
教授 今 林 直 樹 (国際関係論)  
教授 木 村 春 美 (第二言語習得・英語教育)  
教授 九 里 順 子 (日本近代文学)  
准教授 栗 原 健 (宗教学・近世ドイツ史)  
教授 清 水 禎 文 (教育学)  
教授 新 免 貢 (宗教学)  
准教授 杉 井 信 (社会人類学)  
准教授 高 橋 陽 一 (日本近世史・旅行史・歴史資料保全学)  
教授 田 中 一 裕 (生態学)  
教授 天 童 睦 子 (女性学)  
教授 豊 澤 弘 伸 (国語教育)  
准教授 永 田 貴 聖 (文化人類学・移民研究)

- 准教授 間瀬 幸江（フランス文学・演劇）
- 教授 松浦 光和（心理学）
- 教授 宮原 育子（地理学・地域資源論・観光まちづくり）
- 教授 八木 祐子（文化人類学）
- 教授 吉村 典子（西洋美術・デザイン史）
- 客員研究員 阿部 隆（宮城学院女子大学名誉教授・人文地理学）
- 客員研究員 犬飼 公之（宮城学院女子大学名誉教授・古代文学）
- 客員研究員 井上 研一郎（宮城学院女子大学名誉教授・近世美術史）
- 客員研究員 岩川 亮（元宮城学院女子大学准教授・フランス語学・文学）
- 客員研究員 遠藤 みどり（日本学術振興会特別研究員・日本古代史）
- 客員研究員 大迫 章史（東北学院大学准教授・近代日本高等教育史・近代日本教育制度史・教育行政学）
- 客員研究員 折笠 芽衣（元宮城学院女子大学四研究所副手・ポーランド美術）
- 客員研究員 片瀬 一男（東北学院大学教授・教育社会学・計量歴史社会学）
- 客員研究員 菊池 勇夫（宮城学院女子大学名誉教授・日本近世史）
- 客員研究員 木曾 恵子（東北学院大学および宮城学院女子大学非常勤講師・文化人類学・タイ地域研究・ジェンダー研究）
- 客員研究員 後藤 純子（元大阪市立大学文学部助教授・インド学・宗教学）

客 研 究 員	後 藤 久 太 郎	(宮城学院女子大学名誉教授・建築史)
客 研 究 員	J. F. モリス	(宮城学院女子大学名誉教授・日本文化論)
客 研 究 員	土 屋 純	(元宮城学院女子大学教授・地理学)
客 研 究 員	富 永 智 津 子	(元宮城学院女子大学教授・東アフリカ・インド洋地域近現代史)
客 研 究 員	早 坂 優 子	(多賀城市教育委員会事務局文化財課調査普及係・民俗学)
客 研 究 員	平 川 新	(元宮城学院女子大学学長・日本近世史研究・歴史資料保存学)
客 研 究 員	丸 山 仁	(宮城学院中学校・高等学校教諭・日本中世史)
客 研 究 員	森 雅 彦	(宮城学院女子大学名誉教授・西洋美術史)
客 研 究 員	安 田 容 子	(東北大学災害科学国際研究所助教・生き物文化誌〈人と動物の関係史〉・日本近世美術史〈地方文人・画人研究〉)

二 共同研究について

本年度の共同研究は次のとおりである。

「南島における民族と宗教」

「多民族社会における宗教と文化」

共同研究の成果として、次の冊子が刊行された。

『沖繩研究ノート』No.30

三 二〇二〇年度研究活動報告

公開シンポジウム

二〇二〇年一月二八日(土) 午後一時三〇分より午後三時三〇分

(≪宮城学院女子大学講堂・対面／YouTube Live 配信)

対談「魅せましょう！女子大学の底力を！ークリエイティブに生きるための教養ー」

講師 鶴田真由(女) 優

講師 大宮エリー(作家・画家)

共催 人間文化学科／人間文化学会、現代ビジネス学科／現代ビジネス学会、社会連携センター

後援 本学研究ブランディング事業・地域子ども学研究センター

第一回公開研究会

二〇二〇年一月二四日(月) 一四時四〇分より一六時一〇分(≪講義館C三〇八・対面／オンラインZoom 併用)

「仙台に暮らす女性たちの現状と課題ー女性の貧困、非正規雇用を考えるー」

話題提供 宗片 恵美子(特定非営利活動法人イコルネット仙台代表理事)

コメンテーター 兼子 佳恵(特定非営利活動法人石巻復興支援ネットワーク代表理事)

第二回公開研究会

二〇二一年三月十五日（月）一〇時三〇分より一二時三〇分（＝オンラインZoom）

クリスチャニティと女性の教育

報告Ⅰ 忘れられたミッション・スクール…宮城学院定礎箱のなかの仙台女子自助館

片瀬 一男（東北学院大学教養学部教授）

大迫 章史（東北学院大学教養学部准教授）

報告Ⅱ 女性学の視点からプールボーの手紙を読む

天童 睦子（宮城学院女子大学一般教育部教授）

報告Ⅲ リベラルアーツと女性の教育

今林 直樹（宮城学院女子大学人間文化学科教授）

ゲストコメンテーター

遠藤 恵子（元米沢短期大学学長・東北学院大学名誉教授）

〈共同研究「多民族社会における宗教と文化」主催〉

第一回公開研究会

二〇二〇年七月二二日（水）一六時二〇分～一七時五〇分

（＝本学人文館A五四九会議室・新型コロナウイルス感染拡大により非公開で開催）

フィリピン人移住者が作る複数エスニシティ・ナショナルリテイ関係

講師 永田 貴聖（宮城学院女子大学現代ビジネス学科准教授）

第二回公開研究会

二〇二〇年十一月十九日(木) 一三時より一六時(宮城学院女子大学人文館四階A四〇五)

報告Ⅰ 北インド、ボージプリー語圏の民謡とその変化

報告 八木 祐子(宮城学院女子大学人間文化学学科教授)

報告Ⅱ ヒンディー語の諸方言地域における昔話採録の記録

報告 坂田 貞二氏(拓殖大学名誉教授)

第三回公開研究会

二〇二〇年十二月一日(金) 一六時二〇分より一八時五〇分(〓オンラインZoom)

冒頭説明・報告Ⅰ 在日コリアンと在日フィリピン人が交差する場―京都市東九条から

報告 永田 貴聖(宮城学院女子大学現代ビジネス学科准教授)

報告Ⅱ フィリピンにルーツをもつ子どもたちの多様性と社会的課題

報告 原 めぐみ(和歌山工業高等学校准教授)

報告Ⅲ 『見えないハーフ』による不可視性との交渉

報告 佐藤 祐菜(日本学術振興会 特別研究員・慶應義塾大学大学院)

第四回公開研究会

二〇二二年二月二五日(月) 一六時二〇分より一七時五〇分(〓オンラインZoom)

日本から韓国への若者の移動の考察―『ライフスタイル移住』という視角から

第五回公開研究会

二〇二一年二月二十七日(土) 一六時二〇分より一七時四〇分(＝オンラインZoom)

ラスタファアライの「日本的」受容について―歴史・信念・実践を中心に

神本 秀爾(久留米大学文学部准教授)

第六回公開研究会

二〇二一年二月二十日(土) 一三時三十分より一五時三〇分(＝オンラインZoom)

発表者 「インドの月経に関する文化人類学的研究」

八重柏 明 葉(宮城学院女子大学大学院人文社会科学研究所人間文化学専攻)

発表者 「ネパールにおけるナットウの嗜好化―gastro-politicsの視点から―」

工藤 さくら(日本学術振興会特別研究員(PD)、国立民族学博物館外来研究員)

コメンテーター

菅野 美佐子(青山学院大学地球社会共生学部助教)

木曾 恵子(日本学術振興会特別研究員(RPD)、宮城学院女子大学非常勤講師)

司会

八木 祐子(宮城学院女子大学人間文化学科教授)

報告 今里 基(立命館大学大学院先端総合学術研究科博士課程)

コメント 川口 幸大(東北大学大学院文学研究科准教授)

四 所員消息(二〇二〇年四月―二〇二一年三月)

今 林 直 樹 教授

著書『地域の構築・記憶・風景―沖縄・ブルターニュ・バスク―』晃洋書房 二〇二〇年三月

木 村 春 美 教授

論文 “Tapping into the Social Brain to Tackle Classroom Incivility: Emotional and Social Intelligence,”  
Think Tank + : Bulletin of the JALT Mind, Brain, and Education SIG, 6:9 18-25, 2020.

論文 “Multi-Word Expressions Made Easy or Difficult: What L2 and L2 Processing Tells us,” Think Tank + :  
Bulletin of the JALT Mind, Brain, and Education SIG, 6:10 19-26, 2020.

論文 “L2 Pronunciation Instruction Can Elevate anxiety Unless We Raise Awareness, Ease Stress, and  
Give Hope,” Think Tank + : Bulletin of the JALT Mind, Brain, and Education SIG, 6:12 22-28, 2020.

その他「宮城学院の植物たち」『宮城学院資料室年報』第二五号(二〇二〇年三月)

学会発表 “Multi-Word Expressions: What They Are, Why They Are Important, and How to Teach Them,”  
JALT Sendai Monthly Meeting, Online (二〇二〇年十月十七日)

学会発表 “Predictive Processing and Its Role in ELT,” JALT International Conference 2020, Online (二〇二〇年十一月十七日)

九 里 順 子 教授

著書『詩人・木下夕爾』(翰林書房 二〇二〇年七月)

論文「室生犀星、老年の生の言葉——入院記「黄と灰色の間答」「蝶紋白」——」（『日本文学ノート』五五号）

二〇二〇年七月）

書評「鴛田智哉『エレメンツ』（『鬘』七八号 二〇二一年二月）

俳句「地上の燈」（『鬘』七五号 二〇二〇年五月）

俳句「春」（『鬘』七六号 二〇二〇年八月）

俳句「新涼」（『鬘』七七号 二〇二〇年十一月）

俳句「美文韻文」（『鬘』七八号 二〇二一年二月）

エッセイ「花は生きている」（『鬘』七五号 二〇二〇年五月）

エッセイ「何となく、西行」（『鬘』七六号 二〇二〇年八月）

エッセイ「家々や」（『鬘』七七号 二〇二〇年十一月）

エッセイ「空には言葉がある」（『鬘』七八号 二〇二一年二月）

エッセイ「たんどう谷、ゴトゴト谷」（『北の歴史から』三号 二〇二〇年二月）

評論「詩の外包九 残像の津村信夫」（『鬘』七五号 二〇二〇年五月）

評論「詩の外包十 木下夕爾と広島の〈窓〉」（『鬘』七六号 二〇二〇年八月）

評論「詩の外包十一 「山姥と山姫」（『鬘』七七号 二〇二〇年十一月）

評論「詩の外包十二 〈仙姫〉の行方」（『鬘』七八号 二〇二二年二月）

基調講演及び討論 シンポジウム「詩人と俳句——俳句と詩のバイリンガリズム」基調講演「トレーニングと扉

——克衛・犀星・夕爾」(十一月二三日 愛知県立大学文字文化財研究所事業二〇二〇 国際HAIKUプロジェクト オンラインにて開催)

栗原 健 准教授

論文「生徒たちにとってたいへん面白い本」—エリザベス・プールボー使用の教科書について(一八八六年—一八九二年)—『宮城学院資料室年報』第二五号、二〇二〇年三月二日、五—一四頁)

論文「夜、海へ行った時には、気をつけるんだよ。」—『キジムナーは友達』話の背景とその現代的展開—(『沖縄研究ノート』宮城学院女子大学キリスト教文化研究所、第二十九号、二〇二〇年三月二日、一二頁—二四頁)

新刊紹介

Richard Firth GREEN, *Elf Queens and Holy Friars: Fairy Beliefs and the Medieval Church* (『西洋中世研究』一一号、二〇二〇年二月二二日、一五六—一五七頁)

Tadhg O SIOCHAIN, *The Case of the Abbot of Drimnagh: A Medieval Irish Story of Sex-Change*. (『西洋中世研究』一一号、二〇二〇年二月二二日、一六五—一六六頁)

Katherine ROYER, *The English Execution Narrative, 1200-1700* (『西洋中世研究』一一号、二〇二〇年二月二二日、一六七—一六八頁)

新免 貢 教授

論文「共通善の追求の試み—「バベルの塔」を手がかりとして—」『研究論文集一三〇号』(本学紀要委編集委員

会、二〇二〇年六月二〇日、一―三二頁)

論文「悪魔敗走に関する文献学的考察」『研究論文集一三二号』（本学紀要委編集委員会、二〇二〇年十二月二〇日、一―二九頁）

論文「第一コリント二・九、及び、及び、関連テキストをめぐる諸問題」『研究年報第五四号』（本学キリスト教文化研究所、二〇二二年三月三十一日、一―四〇頁）

コラム「求められる倫理的リーダーシップ」（日本基督教団西宮公同教会 月報『公同通信』二八三号、二〇二〇年三月二二日）

コラム「パンデミック考」（同、二八八号、二〇二〇年八月三〇日）

コラム「義民弁護士、坂東克彦さんに捧ぐ」（同、二九〇号、二〇二〇年十月二五日）

コラム「私は動かない」（同、二九二号、二〇二〇年十二月二四日）

コラム「言葉の矢を放つ」（同、二九四号二〇二二年二月二六日）

講演（リモート方式）「共通善を求めて」（日本基督教団四国教区東予分区教師研修会、二〇二〇年十一月二三日）  
講座 関西神学塾／政治・宗教思想研究会（日本基督教団西宮公同教会資料室）「ヤコブ四・七をめぐる」

（二〇二〇年十一月二七日）

調査活動「学校の体罰といじめ」体験者聞き取りと実態調査（自死遺族会・東北いじめ総合支援センター共催シンポジウム、TKPガーデンシティ仙台勾当台、二〇二〇年二月二七日）

調査活動「自死遺族聞き取りと実態調査」（自死遺族の集い「藍の会」、宮城県管工事会館九階会議室、二〇二二

年二月二十六日)

高橋陽一 准教授

論文「Social Outreach in Historical Conservation Work: Giving Feedback about What We Learn」(J. F.

MORRIS 『History, Heritage, and Resilience』宮城学院女子大学機関リポジトリ、二〇二〇年四月)

エッセイ「(連載) 日本の歴史と旅」(『NETT』一〇九・一一〇、ほくとう総研、二〇二〇年七月・一〇月)

講演「作並温泉の開湯と岩松家」(関山街道フォーラム講演会、鷹泉閣岩松旅館、二〇二〇年一〇月四日)

その他「(日本近世史の研究史整理) 交通・経済」(『史学雑誌』一二九・一五、二〇一九年の歴史学界―回顧と展望

―、二〇二〇年五月)

田中一裕 教授

論文「温度周期下におけるカイコ蛾の羽化リズム」(生活環境科学研究所研究報告、宮城学院女子大学、

二〇二〇年三月)

論文「Circadian rhythm in locomotor activity of the common house centipede, *Theraponema tuberculata*

(*Scutigera* sp.: Scutigera)」(*Acta Arachnologica*, 二〇二〇年六月)

講演「家の周りを観察しよう」いきいき学園石巻校(宮城県福祉協会)、東松島市コミュニティセンター(二〇二〇

年十一月一八日)

天童睦子 教授

著書『女性のエンパワメントと教育の未来―知識をジェンダーで問い直す』(東信堂、二〇二〇年六月)

著書「災害女性学をつくる」浅野富美枝・天童睦子編『災害女性学をつくる』（序章）七―二六頁、（生活思想社、二〇二一年一月）

著書「まえがき」「未来への提言―災害女性学から見る課題と展望」（浅野富美枝との共著）一―五頁、一五三―一七二頁、浅野富美枝・天童睦子編『災害女性学をつくる』（生活思想社、二〇二一年一月）

論文「東日本大震災による広域避難者を核とした女性たちの交流会活動―9年間の変遷―」（浅野富美枝との共著）第四回震災問題研究交流会『研究報告書』四〇―四五頁、震災問題研究ネットワーク 日本社会学会震災問題情報連絡会、（二〇二一年一月）（インターネットによる公開）

書評『子育てをめぐる公私再編のポリテイクス―幼稚園における預かり保育に着目して』清水美紀著（『家族社会学研究』第三二卷第一号、一一―一二頁、二〇二〇年五月）

会員文献紹介

『女性のエンパワメントと教育の未来―知識をジェンダーで問い直す』（自著紹介、『国際ジェンダー学会誌』第一八号、一二六頁、二〇二〇年二月）

その他 報告書（翻訳）

「グローバル市民になること―子ども中心の持続可能な開発のための就学前教育」イングリッド プラムリ  
ング・サミュエルソン／天童睦子訳（二〇二〇日本―スウェーデン国際シンポジウム報告書「地域子ども学  
と持続可能性の視点」基調講演）

その他 報告書

「ミッシヨン系女子教育にみる知識伝達の社会史―女性学的随想による一考察」片瀬一男編『東北地方の女子ミッシヨン教育の社会史』（科研費報告書、二〇二二年三月）

学会報告「ミッシヨン系女子教育にみる知識伝達の社会史」（日本教育社会学会第七二回年次研究大会、オンライン、二〇二〇年九月）

日本学術会議・社会学委員会・ジェンダー研究分科会主催

「理数系教育とジェンダー…学校教育にできること」総合司会（オンライン、二〇二〇年九月）

国際シンポジウム企画・運営

Japan - Sweden International Symposium, child-centered community studies with sustainability perspectives, 宮城学院女子大学, October 8, 2020

八木 祐子 教授

研究ノート「ボージプリー文化圏の婚姻儀礼と民族歌謡（その2）」

『多民族社会における宗教と文化』NO.24 宮城学院女子大学付属キリスト教文化研究所（印刷中、二〇二一年三月発行予定）

学会発表「空飛ぶドローン、打ちあがる花火、―ボージプリー語文化圏における婚姻儀礼の変化」（第三二回南アジア学会全国大会、京都大学【オンライン】、二〇二〇年一〇月四日）

研究発表「北インド、ボージプリー語文化圏の民謡とその変化」（宮城学院女子大学付属キリスト教文化研究所「多

民族社会における宗教と文化」グループ主催研究会、宮城学院女子大学、二〇二〇年十一月一九日)

海外調査 北インド、ウッタール・プラデーシュ州アザムガル地区 二〇二〇年二月一日～二〇二〇年二月三

日「北インド、ボージリプリー文化圏の民謡に関するジェンダー分析」に関する海外調査(文部科学省科学研究費、基盤研究C)

吉村典子 教授

論文「リチャード・ハミルトンの『Lux 50: functioning prototype』」(『美学』第七一卷一号、二〇二〇年六月)

論文 “Richard Hamilton and LUX 50th Anniversary Project,” (*LESSONS TO LEARN? Past Design Experiences and Contemporary Design Practices*, Institute for the Research of the Avant-garde, October 2020)

論文「塩見允枝子《空間的な詩》とリチャード・ハミルトン」(『英文学会誌』第四九号、宮城学院女子大学学芸学部英文学科、二〇二一年三月)

口頭発表 “Richard Hamilton and LUX 50th Anniversary Project,” The 12th Conference in the International Committee for Design History and Design Studies, Zagreb (Oct, 2020, on-line)

口頭発表「戦後英国美術におけるモリス解釈」意匠学会デザイン史分科会&第五回モリス研究会(二〇二〇年十二月・オンライン)